

## 自分たちで町を盛り上げていく

朝日新聞の「ひと」欄に立教大学の結城教授の記事が載っていました。

…「早稲田発ゴミ商店街を元気にした」の著者である藤村さんという方がおり、藤村さんは、現在、早稲田エコステーション研究所の代表、そして「ぼうさい朝市ネットワーク」の主催者をされています。このネットワークは、全国18地区の商店街が参加しているもので、被災した岩手県南三陸町の商店街もメンバーに入っていました。藤村さんは、被災地を訪れ、津波で全てを流され、「残ったものは借金だけ」、「自己破産しかない」と意気消沈する南三陸町の商店街の方々に「あなた達が頑張る以外町は復興しない」、「闇市をやろう」と声を掛けたそうです。藤村さんの呼びかけで始まった「復興市」もこれまでに4回行われ、来場者も1日1万人を超えます。

藤村さんがメッセージしたかったのは「自ら盛り上げろ。自分が変わらなければ、何も変わらない」ということだと思います。…

私は、この言葉は、被災した商業者だけではなく、日本各地でまちおこしに取り組んでいる市町村の住民にも言えることだと思います。

「まちおこし」というと難しいように聞こえますが、小さなことでも自分たちにできることから良い方向に改善していこうと考え、行動をおこしてみると大きな運動になる。そのような取り組みはたくさんあります。

例えば、地元以外の人を見かけたら子どもからお年寄りまで挨拶をすることなどがあります。見知らぬ旅先で声を掛けられることに喜びを感じる人が多くなっているようです。

他にも、1戸に1花、各家庭が家の前にプランターによる花を育て、通る人々を楽しませる。空き地を活用して花のコンテストを行えば気分も盛り上がります。家の美観にも関心を配るようになります。また、くもの巣などが気づかれずに放置されているのも無くなります。

神社、お寺、公園、駅前、道端などの落ち葉、ゴミなどの清掃を定期的にグループで行えば、体の運動にもなるし、同じ仲間が増えることで美化運動が広がります。

このようなことはお金のかからない、すぐにでも取り掛かることのできる取り組みです。

自分たちで立ち上がり、自分たちで町を変えていく、このことが大きな輪に広がり、継続することで町が変わっていくことになるのです。

北浜町保存協議会  
会長 半邊 宗五

## 湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思ひます。ご意見・ご要望などございましたら、右記編集委員まで連絡をお願いします。

### 【編集委員】

楠山 吉雄  
半邊 宗五  
妻木 禎子  
齋藤 春太郎(特別委員)

# まちなみ瓦版

■平成23年9月1日

■第7号

■発行：湯浅伝建地区保存協議会

■発行責任者：木下 智之

## 伝統的建造物の歴史（3）

7月から北町の中ほどに位置する太田家の前蔵の修理工事と、塀の修景工事が始まりました。改装された蔵の外観を古い絵図をもとに復原し、ブロック塀を板塀にして、町並みとの調和を図ります。太田家は、江戸末期から続く醤油醸造家で、屋号は「ヤマニ」と称し、戦後は金山寺味噌の醸造・販売業に転じました。



明治18年発行 有田郡名勝豪商案内記より

今回は、そんな古い歴史をもつ太田家について紹介します。

主屋の正確な建築年数は不明ですが、「有田郡名勝豪商案内記」に記載されている外観から大きな変更点もなく、また、構造・意匠上からは、それより古く江戸期に遡る遺構と考えられます。



1階平面は間口6間半・奥行き5間半の規模を持ちます。敷地北側には東から昭和50年代末に居室に改造されている蔵と、現在も味噌醸造の作業場や材料置場として使用されている作業所、西蔵が建ち並びます。大材を用いた力強い小屋組みは、かなりの迫力で見応えがあります。この2棟は江戸末期に遡るとされる大規模な醤油醸造蔵であり、設備等の大きな改変があるものの、登り梁が用いられる豪壮な架構は当時の隆盛をよく伝えています。約30

0坪の敷地内に醸造から販売に係る一連の建物が残されており、醤油で栄えた湯浅において非常に価値が高い遺構群です。

現在、太田家の正面にある「北町ふれあいギャラリー」ではパソコンアート展（金野幸代個展）が開催されています。生まれながらにハンディキャップを抱える金野さんが薬指一本で描いた作品14点を9月13日まで展示しています。ぜひご鑑賞下さい。

この北町ふれあいギャラリーは、建物の所有者である太田さんが「伝建地区を訪れる来訪者の方々が、散策中に立ち寄り休憩できる場に使ってほしい。その際に少しでも楽しんでいただけるように」との思いを込め、町に無償で貸しています。日々の開閉や施設の管理も太田さんが行ってくれています。いつも様々な方



北町ふれあいギャラリー



が作品を発表しており、見学者を楽しませてくれます。北町ふれあいギャラリーは、今や伝建地区内になくはない施設です。

～北町ふれあいギャラリー展示作品募集～

- ◆展示期間…1カ月程度
- ◆展示時間…9時～17時※毎週水曜日休館
- ◆展示・施設使用料…無料
- ◆申込み・お問合せ…役場まちづくり企画課まで  
☎64-1112



過去の展示例（写真&絵画展）

## 豆わらじ作り体験教室を開催しました

8月20日（土）、27日（土）、28日（日）の3日間、甚風呂で豆わらじ作り体験教室を開催しました。総勢20名の参加者があり、みな一生懸命豆わらじ作りに励んでいました。

参加者は、まず豆わらじの作り方を解説したDVDを視聴し、その後、保存協議会の木下会長やボランティア指導者の西岡富子さんから手ほどきを受け、豆わらじのネックレスを作りました。暑い時期での実施となりましたが、参加者からは、「楽しかった」や「もっと小さいものを作って、携帯のストラップにしてみる」などの感想があり、充実した様子でした。



## 少年少女の社会見学 in 湯浅伝建地区

8月19日（金）、第25回近畿ブロック少年少女北方領土研修の一環として近畿各地の中学生約150人が伝建地区に社会見学に来ました。一行は、ボランティアガイドの案内のもと6つのグループに別れ「醤油職人蔵」や「手作り行灯・麴資料館」、「甚風呂」などを見学しました。歴史ある町並みが残り、伝統的な工法で今もなお醸造を続けている醸造元が存在することにとっても驚いていました。



## 毎年恒例の地蔵盆が行われました

8月24日に養専寺川の地蔵盆が行われました。通りには提灯が吊るされ、お参りにくる人と、お地蔵さんの番をする人たちが楽しく話をしており、地域のつながりを感じることができました。地区の方にお話を伺うと、「この地蔵盆は一人の力ではできない。皆が協力してくれるから続けられるんだ」とおっしゃっていました。



## お宝発見ウォークが湯浅町で開催されました

和歌山県の事業の一環で、和歌山には、優れた景観資源などがたくさんあり、それらの価値を自ら発見することを目的とした第3回お宝発見ウォークが8月25日（木）に行われ、県内各地から約40名の参加者が湯浅町を訪れました。伝建地区のほか立石の道標や深専寺の「大地震津波心得の記碑」などを見ながら町内を散策しました。参加者からは、「すばらしい町並みが残っていて良い町ですね。醤油のいい香りがします。雑誌で見たことがある道標なども実際に見れて良かった。」などの声が上がっていました。



知って  
おこう⑦

## 湯浅伝建地区保存協議会とは

湯浅伝建地区保存協議会（以下、保存協議会）は、貴重な文化財である湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区（以下、保存地区）を次世代に継承していくため、歴史的な町並みを保存・活用し、住民主体の活力あるまちづくりを進めています。保存協議会の活動として、保存地区の保存に関する話し合いや、湯浅の歴史文化などについての情報発信などを行っています。ふるさと湯浅のまちづくりを進めていく上で、より多くの方のご意見を取り入れていきたいと考えていますので、「こんな取り組みをしてはどうだろう」などございましたら、保存協議会委員までお気軽に連絡をお願いします。